

国際シンポジウム

都市間交通に関する国際シンポジウム：北京

平成14年11月5日～7日 中国，北京

主催 中国鉄道学会，中国道路学会，中国航空学会，世界交通学会，アジア交通学会

共催 中国科学技術協会，中国国家計划發展委員会総合運輸研究所
運輸政策研究所，日中鉄道友好推進協議会，海外鉄道技術協力協会，
アメリカ土木学会，中国西南交通大学，中国北方交通大学

中国は世界最大の12億人の人口を擁し、しかも近年急速な成長を遂げている。人口は都市へ集中し、100万人を上回る大都市圏が数多く誕生し、規模を拡大している。経済成長に伴い急増している交通需要に対し、施設整備は立ち遅れており、都市内都市間交通ともに交通混雑や移動速度の遅いこと等多くの交通問題が発生している。そのため都市内では道路の整備、都市鉄軌道の整備、都市間交通においては都市間高速鉄道、空港、高速道路、運河、港湾の整備、交通事業の効率的な運営が中国の交通上さらには国土計画上の大きな課題となっている。都市間交通の分野では、特に、中国の近年の経済成長を支えている北京と上海間の地域をつなぐ鉄道が旅客と貨物輸送の列車で飽和状態にあることが大きな問題であり、このため北京上海間高速鉄道の整備が中国幹線交通政策上の最重要課題となっている。

その中国の北京で、2002年11月5～7日に都市間交通に関するアカデミックな観点からの国際シンポジウムが、中国鉄道学会、中国道路学会、中国航空学会、世界交通学会、アジア交通学会の主催で開催された。日本、中国、韓国等のアジア諸国を中心に欧州諸国、米国、オーストラリア等13カ国から多くの交通関係者が参加した。日本からは、大学、国土交通省、交通事業者、シンクタンク等からそれぞれの分野の専門家が参加した。運輸政策研究所はこのシンポジウムを共催するとともに中国の鉄道学会と事務局をつとめた。以下に、このシンポジウムの概要を示す。

3日間にわたるシンポジウムは基調講演、特別セッション、一般セッション、交通事業者セッション、技術展示会で構成された。

初日である11月5日は、基調講演からはじまり、中国鉄道学会の国林会長が「WTO加盟後の中国の市場開放政策と

市場への参入許可」を、当研究所の中村英夫所長が「鉄道輸送の革新と社会経済への効果 日本の経験」を、中国道路学会の李居昌会長が「中国高速道路の現状と整備計画」を、世界交通学会のウェルナー ローテンガッター会長が「中央・東ヨーロッパにおける交通需要の見通し」を講演した。

引き続き行われた特別セッションは、「都市間交通と高速鉄道の役割」と「都市間交通の事業戦略」の2つにわけられ、先進国の鉄道の整備と運営、日本の新幹線整備の歴史と計画、日本の航空戦略、欧州の鉄道改革、中国の総合交通政策、鉄道高速化のための技術、磁気浮上方式と車輪方式の比較など11の報告がなされた。

その後、2日間にわたる一般セッションで、約100の報告とそれに基づく活発な質疑が行われた。



セッション1：都市間鉄道の開発戦略
と政策

セッション2：安全と環境

セッション3：道路交通

セッション4：都市間交通需要分析

セッション5：交通需要と社会経済効
果の分析

セッション6：貨物輸送

セッション7：規制と経営

セッション8：航空

国別の投稿論文数の内訳を表に示す。中国と日本が多いが、その他のアジア諸国、欧米諸国、オーストラリアからも多くの論文が発表された。中国でこのような都市間交通に関する大規模な国際シンポジウムが開催されたの

は初めてであり、本シンポジウムの成果は今後の中国の交通政策、とりわけ都市間鉄道政策に大きな影響を及ぼすことが予想される。

最後に、学術・組織委員会、セッションの司会、講演、シンポジウムへの出席等様々な形でご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

表 1 国別投稿論文数

国、地域	論文数
日本	50
中国	50
韓国	17
台湾	5
タイ、インドネシア、シンガポール	7
イギリス、フランス、ドイツ、スペイン	6
アメリカ	3
オーストラリア	4
計	142



(とりまとめ：伊東 誠，属 国権)